

高校生が考える実地研修における交流事業の可能性について

栃木県立大田原高等学校 藤本拓実 遅沢陸翔 谷高陸斗 田中遼 星拓臣

1 はじめに 高校生の意識変容

～飯館村実地研修とは～

福島県相馬郡飯館村で東日本大震災・福島第一原子力発電所事故の被災地の現状と復興の歩み、放射線等を学ぶ実地研修。

時期：毎年秋（1泊2日） 対象：本校1・2年生希望者

協力：認定NPO法人ふくしま再生の会、溝口勝氏（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）、本校OB



- ・昨年度の先輩の研究では、本校生対象の飯館村に関するアンケート調査では、研修報告会前後で、聴講した生徒の意識の変容が生じることがわかった。
- ・友人による実測値に基づいたリアルな情報の有効性が考えられる。

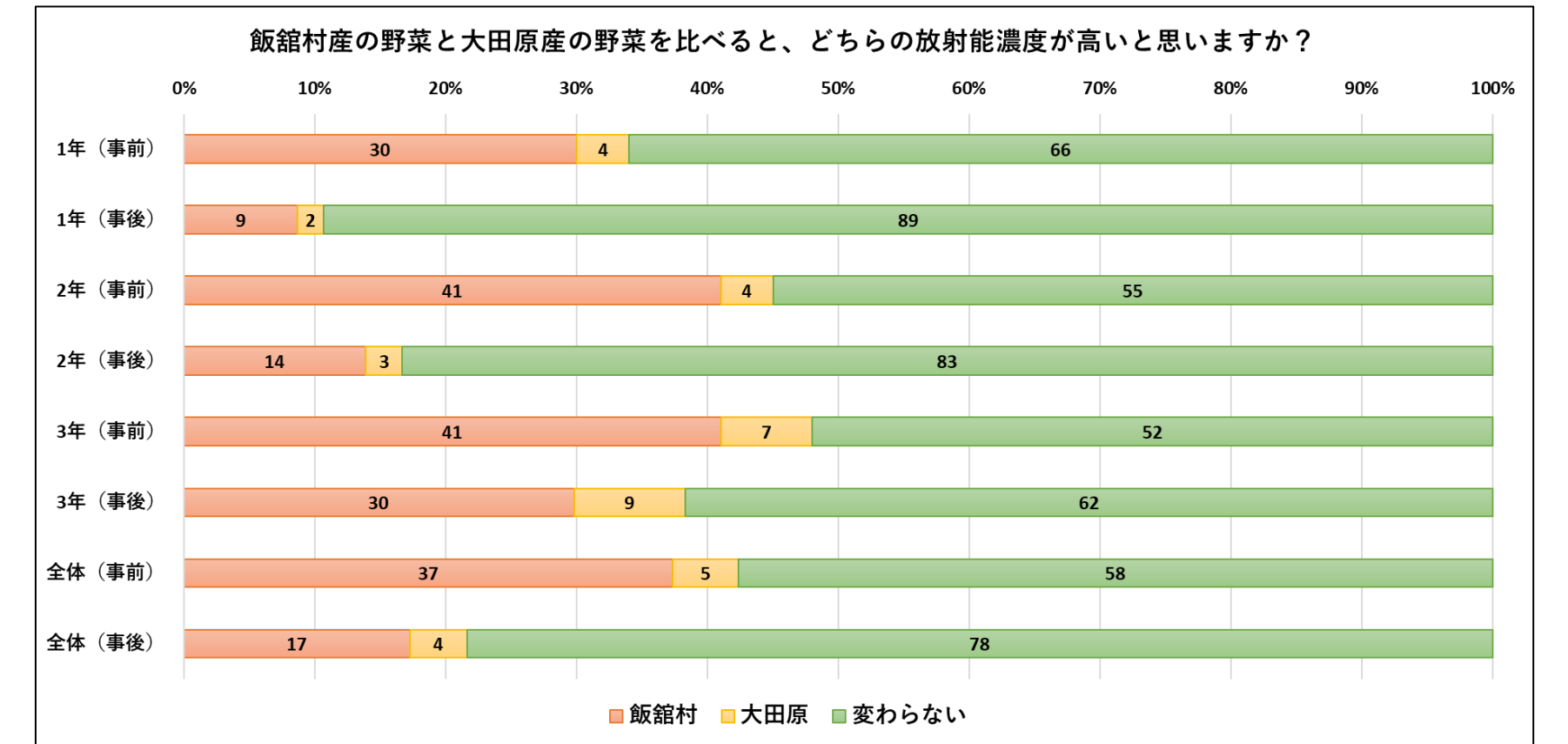


図 『実地研修前後における高校生の意識変容』アンケート調査（復興農学会第2回研究会）より引用

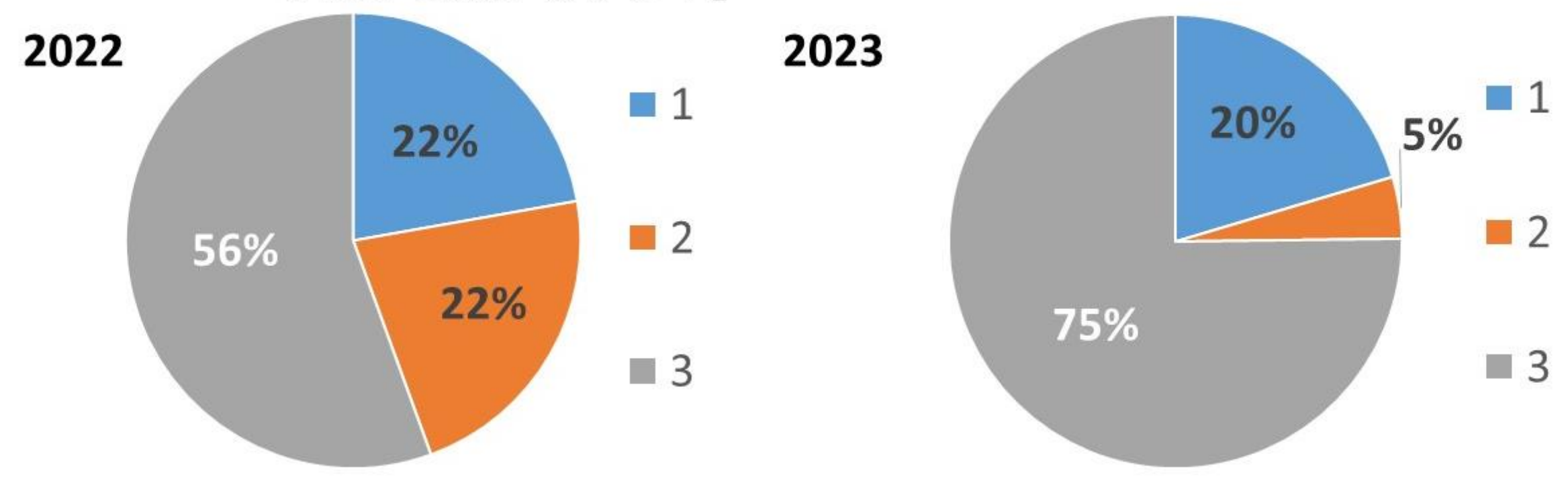
2 今までの取組

(1) 本校主催「SSH成果発表会」で研修報告

実地研修の活動報告と調査結果をまとめて口頭発表
農作物に関する意識調査では変化が見られている

○対象 本校生(1～3年)597名 回答数2022年363名 2023年251名

○アンケート「飯館村産の野菜と大田原産の野菜を比べると、どちらの放射能濃度が高いと思いますか？」



【選択肢】1. 飯館村 2. 大田原 3. 変わらない

図 本校生対象アンケート調査（2022・2023年比較）

(2) 他校発表会への参加

【発表事例（令和2～5年度）】

- ・福島県立安積高等学校「SSH探究活動発表会」
- ・栃木県立栃木高等学校「SSH研究成果発表会」
- ・茨城県立緑岡高等学校「英語による科学研究発表会」
- ・横浜サイエンスフロンティア高等学校「生徒課題研究発表会『YSF-FIRST』」

(3) リーフレットを作成・配布

実地研修の活動をまとめたリーフレットを学校祭等で配布



図 飯館村実地研修リーフレット（左図：表面、右図：裏面）

3 今後の取組

(1) 他校を交えた飯館村実地研修

従来の活動に加えて、他校とともに活動して、福島県の復興活動への理解の輪を広げる

表 新たな研修の予定案(赤字は新たに大高生が考案した活動)
参加予定人数 40名 参加高校 4校を予定

	活動内容	概要
1日目	出発	
	東日本大震災・原子力災害伝承館	震災や原子力災害の勉強
	道の駅 なみえ	昼食
	被災地フィールドワーク	津波の被災地を視察
	風と土の家or川俣町の宿泊施設に移動	
2日目	川俣町の人たちはカレー作り	福島県産の食材を使用 他校間の友好を深める
	夜、風と土の家の人たちは、天体観測	
	体験学習	食品・除染土の放射線測定etc.
	昼：BBQ	福島県産の野菜や肉を使用
3日目	図図倉庫(ズットソーコ)見学	図図倉庫の説明、放射線講義、ディスカッションetc.
	奉仕作業	草むしり、掃除etc.
	振り返り及び応援団による激励	
	いわき市に移動	
	海洋放出についての学習や福島観光	
	帰還及び解散	



↑大田原高校応援団



↑飯館村で撮影した木星

(2) 福島応援団による応援

各高校の応援団と連携して福島県で現地の方々へ向けて応援をする

4 まとめ

今後の活動として、飯館村実地研修と応援団による応援の2つの取り組みを提案する。この研修では福島県外の高校生へ向けて、福島応援団では福島県の方々へ向けて活動をしていきたいと考えている。この新たな活動のメリットとデメリットは、

メリット：高校生に福島県の復興と現状について興味を持ってもらえる、福島県の魅力を伝えられる、応援を通じた連携が強化される

デメリット・課題：人数や宿泊施設の制限がある、各高校の連携構築が難しいことが挙げられる。

今後の展望は、福島県のみでの応援にとどまらず、他の被災地などに応援を届けていきたい。

今後はこれらの活動を実施できるように大田原高校が主体となって、他校にも働きかけたい。

6 参考引用文献

- 1) 溝口勝 (2019) . 『ドロえもん博士のワクワク教室「土ってふしぎ!？」～放射性セシウムに対する土のはたらき～』 . ドロえもん博士と仲間たち
- 2) 栃木県立大田原高等学校 『実地研修前後における高校生の意識変容』復興農学会第2回研究会